※令和４年度以降入学生用

学校番号	216

令和５年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「高校生の美術Ⅰ」　（日本文教出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

　例えば、日頃何気なく見ているお菓子のパッケージやその包み紙に至るまで、形あるものは漏れなく誰かによってデザインされたものです。そこには、色と色の組み合わせや配置、見た人が美しく感じるためのルールが存在します。
　美術Ⅰではそういった造形の基礎的な知識や技能を学ぶとともに、自らによって美しいものを作り出す楽しさやその素晴らしさ感じることができる資質を育んでいきます。

２　学習の到達目標

（１）対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。（知識及び技能）
（２）造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等）
（３）主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好 する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や 社会を創造していく態度を養う。
（学びに向かう力・人間性等）

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我々の日常には美術的な知識や技能を介することで理解できる事象に溢れており、美術というものがいかに重要な学問であるかを理解する。（知識・技能）	どのような色彩や造形などが、自身が望む表現を可能とするかを思考し、判断することができる。（思考・判断） 単なるものづくりではなく、美術という手段がいかに自由な言語かということを理解し、それを表現に繋げることができる。（表現）	紀元前から現代に至るまで、人類が何万年にも及び行ってきた美術というものに対して興味、感心を持ち、制作や鑑賞を主体的に取り組むことができる。（主体的）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	色彩基礎	色の三属性	a. 色相、明度、彩度について理解することができる。 b. 美しい平塗りすることができる。 c. 粘り強く制作することができる。	作品 ワークシート	作品	作品 授業観察
	鉛筆デッサン	・グレースケール ・パース ・陰影	a. 鉛筆の持つ色幅や透視図法、基本的な形の陰影の落ち方について理解することができる。 b. 鉛筆で対象の持つ量感や質感を表現することができる。 c. 粘り強く制作することができる。	作品 ワークシート	作品	作品 授業観察
	平面構成Ⅰ	線と弧を用いた平面構成	a. 配色や構図の重要性について理解することができる。 b. 配色や構図を考えて構成することができる。 c. 粘り強く制作することができる。	作品 ワークシート	作品	作品 授業観察
二学期	平面構成Ⅱ	色面分割	a. 対象を明度で捉えたとき、同じ明度の面をひとつの色面として認識することができる。 b. 色面を明・中・暗に塗り分けることができる。 c. 粘り強く制作することができる。	作品 ワークシート	作品	作品 授業観察
	油画	静物画	a. 道具や油絵具の特製を理解することができる。 b. 対象を絵画的に表現することができる。 c. 粘り強く制作することができる。	作品 ワークシート	作品	作品 授業観察

※令和４年度以降入学生用

三学期	立体構成	紙立体	a:丁寧な仕事がなされるような正しい道具の使いかたをすることができる。 b:自身の美意識をもとに、立体物を造形し構成することができる。 c:立体造形やそれによってできる空間の美しさを感じ取り、制作を通して主体的に取り組むことができる。	作品 ワークシート	作品	作品 授業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度